

私のすすめるこの1冊

田邊 織恵 (音楽科 准教授)

戯曲『黄金の国』

遠藤周作著

皆さんは、遠藤周作の小説『沈黙』をご存じでしょうか。長崎でのキリシタン弾圧を描いた作品ですが、その『沈黙』の姉妹作となる、戯曲『黄金の国』を今日は紹介したいと思います。

これは遠藤が初めて書いた戯曲で、『沈黙』の前編ともいべきテーマで書かれている作品です。1549年、日本にキリスト教を広めるためにやってきた聖フランシスコ・ザビエルは、日本のことを「黄金の国」と呼び、熱心に布教活動を行い、当時70万人とも100万人とも推定されるキリスト教徒を日本に生み出しました。しかし豊臣秀吉、徳川家康の時代になると、外国からの侵略を恐れ、それを排除する為に徹底的なキリシタン弾圧が行われるようになりました。その方法として、踏み絵を行い、踏みぬ者は棄教するまで拷問を受ける、もしくはそれに耐えても殉教という形で殺されていくという時代がありました。

『黄金の国』には、ポルトガルからやってきた宣教師フェレイラ(実在した人物)と、自分たちの村でいつ踏み絵が行われるのかと日々恐れながら暮らしているキリシタンの百姓達が登場します。まさに今、行われようとしている踏み絵の儀(絵踏みとも言う)に際し、蛇のような狡猾さで棄教させようとする長崎宗門奉行所の井上筑後守(実在した人物)らとのハラハラとするやり取りが続きます。

しかしこの井上も、かつてキリスト教に帰依し洗礼まで受けていたが、泥沼である日本へはこの宗教は根付かないと、20年前に棄教した人物だったのです。

この『黄金の国』は、深い信仰のために次々に死んでいく百姓たちを目の前にし、自分の信じる神とは何なのかという宣教師フェレイラの葛藤が描かれていますが、実は

フェレイラを通して、井上の、日本に対する憎しみや、そんな自分自身への深い葛藤や苦しみが大きなテーマともなっています。

またこの中で、殉教をしたものは“強い人間”といい、キリストを信じながらも、拷問の怖れから踏み絵を踏んだ“弱い人間”の方にスポットを当てているのも遠藤ならではの視点であるでしょう。

自分の信じる神とは何か、人間とは何か、それによって変わりゆく社会とは何か、読みながらも、自分だったらどんな選択をしていたのか、この時代に生きていたらどうなっていたのかと自問自答してしまうような作品です。

実は、私、今年11月29日(土)堺市教育文化センターで、この『黄金の国』を原作とするオペラに出演することになっています。作曲はメディア等でもお馴染みの青島広志で、今回は指揮者としても登場します。もしご興味のある方は是非、足をお運びいただければ幸いです。(詳しくは、堺シティオペラのHPをご覧ください。)



(オペラ『黄金の国』チラシ)



図書館からのお知らせ



わくわく Kyo²ライブラリー 読書キャンペーン

実施期間: 2014年10月27日(月)~2015年2月28日(土)

対象: 本学学生 (学部生・院生・科目等履修生・研究生等)



実施期間中、返却時に読後コメントを提出すると、
コメントの字数に応じてポイントを進呈。
・コメント A (50 字前後) → 1 ポイント
・コメント B (200 字~400 字) → 2 ポイント
※コメント用紙は館内で配布しています。

景品の引き替えについて

場所: 事務室(カウンターでは引き替えません)
期間: 2014年10月27日~2015年3月25日
時間: 平日(月~金) 9:00~17:00
※景品は先着順とし、なくなり次第終了となります。

ポイントをためて学習応援グッズをもらおう!

2 ポイント、5 ポイント、10 ポイント、20 ポイントでそれぞれ景品がもらえます。目指せ 20 ポイント!
さらに、コメント B から優秀者 2 名に館長賞を贈呈!

期間中に本を借りた人には図書館オリジナル ぞったくんポリバッグを差し上げます♪

図書館の本を入れて使ってね。

講習会のお知らせ (時間など、詳しい情報はホームページやパンフレットをチェックしてね!)

11 月も講習会を実施中です。4~6 月に参加できなかった方はぜひご参加ください!

区分	講習会名	内容	実施期間	授業	レベル
論	エブスコディスカバリーサービス	さまざまなデータベースを一括検索する	11月10~14日	●	★★
館	国会図書館の利用法	日本最大の図書館を活用する	11月10~14日		★★
論	オープンアクセス論文	無料で読める論文を知る、検索する	11月10~14日		★★
論	EBSCOhost	海外論文を検索する	11月17~21日		★★★
論	ScienceDirect, Springer	海外論文を検索する	11月17~21日		★★★
集	文献管理編	集めた論文を管理する	11月17~21日		★★★

区分: 「館」=図書館利用 「論」=雑誌論文の検索 「集」=資料管理

授業: ●=ゼミ単位のガイダンスでの基本指導内容。実施予定があるかどうか、指導教員に確認してください。

レベル: ★=初級 ★★=中級 ★★★=上級 ただし、あくまで参考程度です。必要な分野は専門により異なりますので、自分に必要と思うものを選んで受講してください。迷う場合は、指導教員や図書館員にご相談ください。

京阪奈三教育大学連携事業プロジェクト

三教育大学間相互貸借を無料化します

対象者: 本学学生(学部生・院生・科目等履修生・研究生等)
実施期間: 2014年10月~2015年2月

学生が相互貸借を申し込んだうち、大阪教育大学または奈良教育大学から取り寄せた場合、送料は無償とします(2 大学以外から取り寄せた場合は通常通り有料です)。

申込時に大阪教育大・奈良教育大の所蔵を確認し、申込書の備考欄または WEB 申込画面の通信欄に記入してください。資料によっては 2 大学から借用できない場合があります。

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/information/2014/ILL-free.html>

特集コーナー その1

図書館ニュースで 100 回以上続く連載、
「私のすすめるこの 1 冊」の紹介図書コーナーを設置予定。

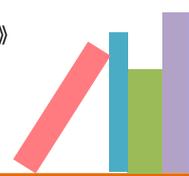
11 月前半は

《教育という思考法》《住まい、そして街》

11 月後半は

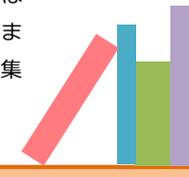
《教室の達人たち》《生き物をもつめる》

のテーマで、毎回 10 冊ほど展示します。



特集コーナー その2

1 階渡り廊下のミニコーナー展示、11 月は
「食」をテーマにしたコーナーを設置します。
さまざまな方面から食に関する本を集めていますので、どうぞ手にとって、
心とお腹を満たしてください。





イベント・展示案内



第19回 教科書展 中等教育用教科書（美術科編）

今年は中学校美術科の教科書をとおして、美術教育の歴史の一端をお目に掛けます。
ぜひお越しください。

【開催日】2014年10月27日(月)～11月14日(金)日・祝休館
※11月9日(日)は藤陵祭のため教科書展のみ開催しています。

【開催時間】9:00～17:00

【開催場所】附属図書館 北館1階 企画展示室

※入場無料。どなたでもご覧いただけます。



京都教育大学同窓会 写真展

期間:11月7日(金)～9日(日)

場所:附属図書館北館1階 企画展示室(西側エリア)

MOA・こども美術展

期間:11月21日(金)～22日(土)

場所:附属図書館北館1階 企画展示室

第23回 うたとおはなしの会

日時:11月22日(土) 11:00～12:00

対象:幼児(3～6歳頃)と保護者、0～2歳児さんも大歓迎!
場所:京都教育大学附属図書館 北館2階 研修セミナー室1

※申込方法についてはチラシやホームページをご覧ください。
※無料です。

大学の中を歩いていると、赤や黄色の鮮やかな葉っぱが、風に吹かれて楽しいダンスを踊っています。うたとおはなしの会では“読書の秋”“芸術の秋”にちなんで、子どもたちの心がほっかほかになる楽しいうたやお話をたくさんご用意しました。大人気の人形劇は「おおきなかぶ」を上演予定! まだ参加したことのないお友達も誘って、皆さんでぜひお越しください。

えほんのむい 今月の読み聞かせ会は、
おやすみ です。次回は12月の予定です。



『ちんとたべなさい』

ケス・グレイ作 ニック・シャラット絵 よしがみきょうた訳

★おすすめポイント★

デージーは、いつもおまめを残します。ママが、おまめを食べさせるために、アイスのごほうびを付けたり、新しい自転車を買ってあげるよと言っても、デージーは、「おまめ、だいきらい」と言うばかり。どうして、そう言うのかな?

※絵本カードは幼児教育科の学生が作成しています。
このほかにも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ児童書コーナーに見に来てください。

今月の
絵本カードは
こちら!

教育資料館
まなびの森ミュージアム

秋季企画展

「掛図と標本でみる師範学校の生物教育」
2014年11月8日(土)～12月24日(水)

【開館日】月・水・金・日

※11/8(土)は開館。11/23(日祝)、24(月)は休館

【開館時間】13:30～17:00

【入館料】無料

ぜひご覧ください

※詳しくは、まなびの森ミュージアム HP にて

<http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html>

第3回「京都・大学ミュージアム連携」
スタンプラリーもやっています!

今回の執筆者 香川 貴志 (社会科学科 教授)

「小学校社会科における苦手意識はどのあたりで芽生えるのか？
—データをもとにした授業改善に向けてのヒント—」

香川貴志

京都教育大学紀要. 2014, No.124, pp.13-27

小学校社会科は、小学校第3学年に始まり第6学年までの4年間で学ぶ教科である。このうち第5学年までの3年間で第6学年3学期の内容が地理的領域、第6学年1学期が歴史的領域、第6学年2学期の内容が公民的領域とそれぞれ深く関わっている。小学校社会科は「好きだ(好きだった)」と感じる者が多い一方で「嫌い(嫌いだった)」との苦手意識を持つ者も珍しくない。そこで著者は、小学校社会科の授業に携わる先生方の利便を図るため、小学校社会科における苦手意識がどのあたりで生じやすいのかを質問紙法で調べた。調査対象は、著者の本務校である京都教育大学、および非常勤先の関西大学における概論系科目の受講生である。その結果、苦手意識は第5学年の「第二次産業」の単元、第6学年の「政治」の単元で生じやすいことが判明した。

サービス産業化の時代、また非製造業を基盤とした都市の時代といわれる昨今の社会情勢を踏まえば、苦手意識を生じやすい単元は、多くの児童にとって日常生活から見え難い(可視的でない)ものを対象としているという共通性がある。「第二次産業」については各教科で着目されている「みえる化(可視化)」を図るために購買や消費と結びつけて考えさせる工夫が必要で、「政治」については地理的領域の各単元で既習の「地域の成り立ち」に加え、歴史的領域で既習の政治史的な観点と関連させた授業設計が望まれる。持続可能な社会の担い手となる子どもたちが、中学校社会科における地理・歴史・公民の各分野を相互活用しながら学べる素地は小学校で築かれる。本稿が少しでも授業改善に資する契機となれば望外の喜びである。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 124号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> にも公開されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

■学内者のみ

2014年11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

11/5 館内整理日

11/24 振替休日

11/15・11/29 入試(学外者の来館不可)

2014年12月

日	月	火	水	木	金	土
	2	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

12/6 推薦入試

12/23-1/4 冬季休業

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

QRコード →



京教図書館 News No.170 (2014年11月号)

発行日:平成26年11月4日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp



京都教育大学